



江東区

TOKO TOKO
まちあるき

江戸東京への舟運物流システムは、小名木川を中心に形成され、この地には船の積み荷を検める番所「船番所」が設置されていました。絶え間なく船が行き交っていた当時の小名木川に思いを馳せながら歩きます。

小名木川、旧中川、そして荒川を満喫

都営地下鉄東大島駅は北緯35度41分23.55秒 東経139度50分50.77秒でござる。

距離 約4km
目安所要時間 約120分



- 江東区文化観光ガイド
～区内の無料まちあるきガイドサービス～
江東区文化観光ガイド事務局 ☎03-6458-7410
受付時間：9時～17時(土・日・祝日・年末年始を除く)
- 深川東京モダン館
～江東区の観光・まちあるき案内所～
住所：江東区門前仲町1-19-15 ☎03-5639-1776
開館時間：10時～18時(金・土は19時まで)
休館日：月曜(祝日の場合翌営業日)及び年末年始

①東大島駅

関東の駅百選に選ばれた東大島駅はホームが川の上であり、西改札口は江東区、東改札口は江戸川区に跨っています。駅前には四神の一つ青龍像があります。また、近隣には都営新宿線大島車両検修場や車両機材搬入口があります。

②宝塔寺 塩なめ地蔵

稲荷山小名院宝塔寺は慶長15年(1610)に開創されました。二代將軍秀忠公の頃です。このお寺には、めずらしい「塩なめ地蔵」があります。小名木川や行徳道を通る商人たちが、航行安全、商売繁盛を願い塩を供えたのが由来とされています。供えられた塩を「いほ」に塗るといほが取れるとも言われ、「いほ取り地蔵」とも呼ばれています。

③小名木川

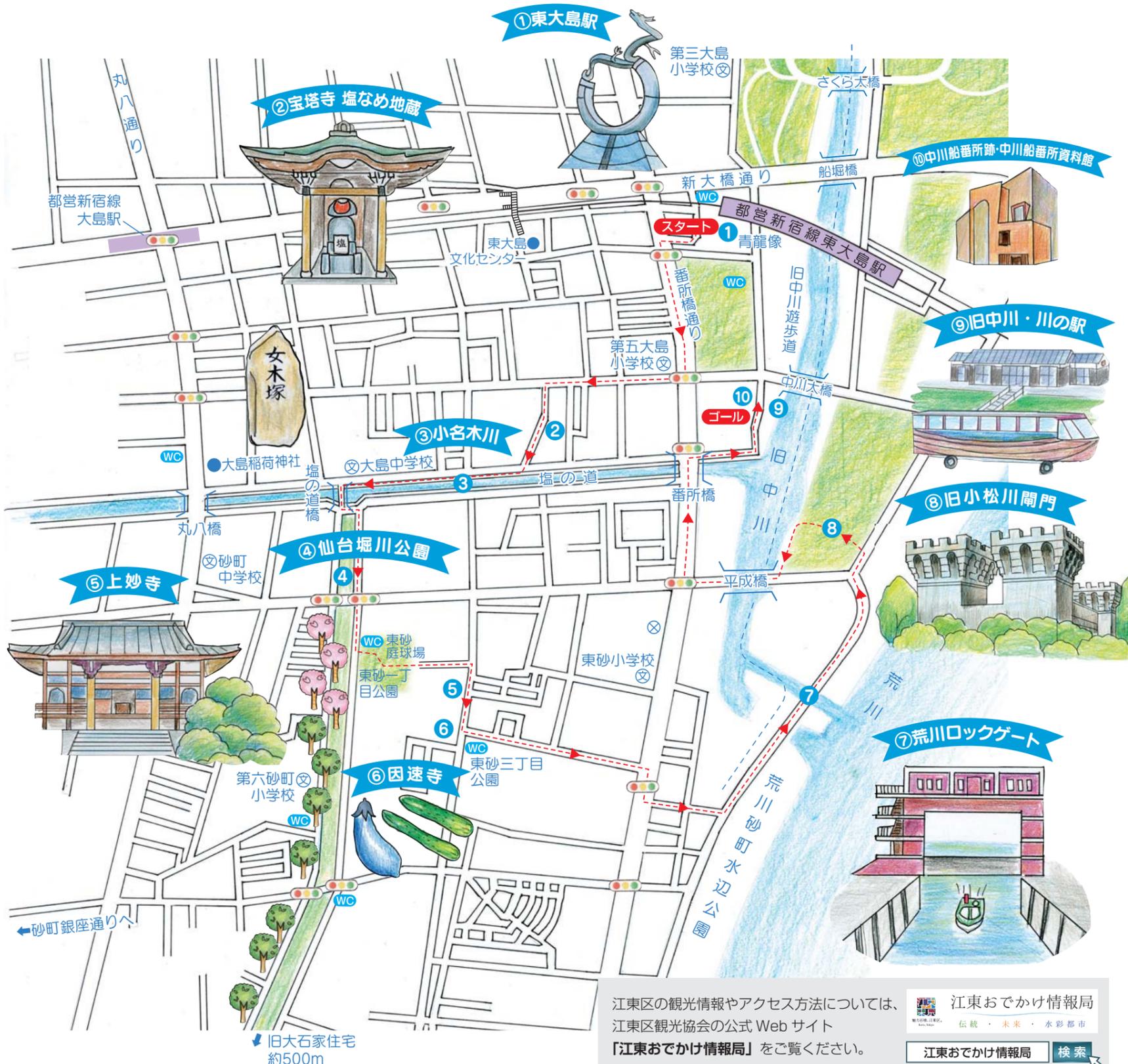
旧中川から隅田川まで東西に江東区を横断している4640mの一級河川。天正18年(1590)徳川家康の江戸入府の頃に塩などの物資の輸送路として用いたのが始まりといわれています。小名木四郎兵衛が開削したともいわれ、小名木川の名の由来となったという説や、うなぎが良くとれたのでうなぎ川といわれ、なまった説や、女木山谷(おなぎさや)が小名木沢になった等諸説があります。明治時代には小名木川水運を利用して諸工業が発展しましたが、陸上運輸が発達し運輸機能が次第に低下していきました。現在小名木の両岸は、歩行者専用の遊歩道「塩の道」として整備が進み、柳をはじめさまざまな植栽が楽しめます。

④仙台堀川公園

都内最大級の親水公園(延長3700m、面積10.45ha)。園内には桜並木、多目的広場、親水池、彫刻、細工ロード等があります。特に250種類の樹木2400本は「区民の森」と呼ぶにふさわしい自然が再現されています。公園内には旧大石家住宅(区内最古の茅葺民家)が移築され、土、日、祝日に一般公開されています。

⑤上妙寺

砂町の荻新田を開いた荻家を開基とする日蓮宗の寺院です。荻家自身の土地を寄進して建立し、境内にはかつて鬼子母神堂があり、毎月8日に開帳し大層賑わっていたといわれています。入り口には当時を偲ばせる「鬼子母神道道標」が建っていますが、もともとは小名木川沿いに建てられていたものです。



⑥因速寺

元和年間(1615～24)京橋に創建された浄土真宗の寺院。関東大震災で昭和2年(1927)に現在地に移転してきました。江戸期に野菜の促成栽培を考案し3月中旬にはナスやキュウリ等を將軍に献上して賞賛された松本久四郎、歌舞伎で『め組の喧嘩』として有名になった力士の四ツ車大八の墓があります。

⑦荒川ロックゲート

かつて活躍した舟運は陸上交通に変わり水運の利用が少なくなりました。そこでより強固な水防計画がなされ閘門、水門を閉鎖してスーパー堤防の建設が始まりました。しかし被災者の救助や災害時の救援物資の調達、復旧物資を運ぶため平成17年(2005)10月に防災対策の一環として、荒川ロックゲートが完成。荒川と旧中川を結ぶ航路となりました。日中は屋上へ上がることができ、雄大な荒川の風景を一望できます。

⑧旧小松川閘門

江戸初期より下町一帯は水害に悩まされ、大きな被害を被りました。そこで政府は明治44年(1911)から昭和5年(1930)まで約20年の歳月をかけて荒川放水路を完成させました。それにより旧中川、小名木川の水路が分断され水位も変わったため、舟運に支障のないようにパナマ式の小松川閘門が建設されました。その後、陸上運輸の発達により舟運の需要が減少し、閉鎖されましたが、今もその一部が残されています。

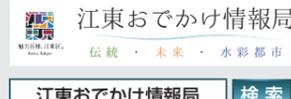
⑨旧中川・川の駅

多様な水辺利用の拠点として、平成24年度にオープン。水陸両用バスが入水し、和船やカヌー乗り場も整備されています。施設内には無料の足湯コーナーもあります。

⑩中川船番所跡・中川船番所資料館

小名木川は、千葉、茨城や東北方面の物資を江戸に輸送する重要な河川でした。そこで幕府は船の取締検問のために番所を置き、船の出入りを監視しました。当初は隅田川に近い萬年橋の袂にありましたが、江戸の発展とともに寛文元年(1661)に、ここ中川口に移転し、明治2年(1869)まで続いていました。資料館では「中川船番所」の一部を再現するとともに、江戸の水運や江東区の開発・産業等の歴史を紹介しています。

江東区の観光情報やアクセス方法については、江東区観光協会の公式 Web サイト「江東おでかけ情報局」をご覧ください。



江東おでかけ情報局 検索

旧大石家住宅 約500m